

食育だより

1月



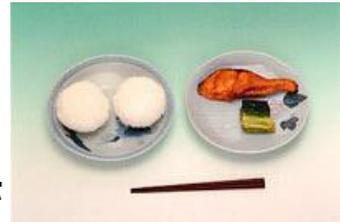
学校給食の歴史～1月24日は給食記念日

今の学校給食は、栄養バランスが整い、豊富な食材を使ったバラエティに富んだ献立です。しかし、昔からこのように豊かなものだったわけではありません。1月24日の給食記念日には給食の歴史について振り返り、将来のために食の自己管理能力を身に付けて欲しいと思います。

学校給食の歴史

明治22年 学校給食のはじまり

山形県の忠愛小学校で、経済的に恵まれない児童におにぎりや塩鮭、菜の漬け物を昼食として出したことが学校給食のはじまりといわれています。



昭和16年 戦争による学校給食の危機

～20年 戦争で学校給食を続けることが難しくなり、学童疎開が広まるようになると給食も中止になりました。

昭和21年 戦後初の学校給食開始

12月24日、試験的に東京都、神奈川県、千葉県で戦後はじめての学校給食が作られ、記念すべき日となりました。冬休みとの関係で、その1ヶ月後の1月24日からの1週間が学校給食週間とされました。



昭和25年 完全給食のはじまり

アメリカ合衆国から小麦粉が送られ、パン、ミルク(脱脂粉乳)おかずの完全給食がはじまりました。

昭和29年 学校給食に関する法律の制定

学校給食は、子ども達の体力向上だけでなく、教育としても考えられるようになり、国の法律として「学校給食法」が制定されました。

昭和40年 ミルク(脱脂粉乳)から牛乳へ

学校給食用飲料として、ミルク(脱脂粉乳)から、牛乳へと切り替えがはじまりました。

昭和51年 米飯中心の献立へ

米飯を中心とした学校給食が正式に始まりました。

現在 世界に誇れる日本の学校給食

地元でとれた食材を使った特色ある給食や、郷土料理をとり入れた給食、バイキング給食、世界の料理など献立の種類も増え、豊かで恵まれた学校給食が行われています。



※我孫子市では、小学校が昭和38年の我孫子第一小学校と布佐小学校、中学校は平成5年の白山中学校が戦後の完全給食の始まりでした。

★ 久寺家中学校の給食は平成11年から始まりました。我孫子産こしひかりを100%導入しています。

